資料　3

令 和 5 年 3 月 23 日
高齢施策担当部高齢者支援課

令和４年度第２回　練馬区地域ケア推進会議

１　会議の目的

高齢者が地域で安心して暮らし続けられるよう、地域包括ケアシステムを確立するため、地域ケア圏域会議等で把握された課題および社会資源の現状を共有するとともに、区の対策を検討し、政策形成を図る。

資料３別紙　参照

２　地域ケア圏域会議等の実施結果

⑴　圏域課題として出された主な意見

①　地域の見守り

・町会や自治会に加入する人が減っており、世代間の意識の差(ギャップ) や生活スタイルの違いから、見守りが難しくなってきている。

・コロナ禍で集まる場が減ってしまい、ひとり暮らし高齢者や、高齢世帯のみ世帯など、地域とのつながりが難しくなっている。

・8050 問題など、高齢者になり大きな問題になる前に、若い世代の精神疾患や引きこもりのある方等の支援が必要である。

②　認知症支援

・認知症の人を地域で支えていくためには、居住地の地域性（公団、都住、戸建てなどの地域の特性) を踏まえて、その地域にあわせた取組が必要である。

・区のもの忘れ検診を受診されていない方で、認知症になりつつある方を発見し、支援につなげていくことも課題である。

③　ひとり暮らし高齢者の終活

・終活は、若いうちから備えておく必要がある。終末期の話をしづらい場合には、タブレットなどを使って終活のイメージをもってもらえるとよい。

・終活と ACP 両方考えることが大切。

・地域の発信力、受信力を高める施策は地域支援力を行政、町会、自治会含めしっかりと対応を協議していかなければならない。

⑵　各会議の結果概要

資料４のとおり

３　区の取組の方向性

①　地域の見守り

・区は、地域で活動している団体等と連携し、高齢者を支える体制を整備するため、生活支援コーディネーターを社会福祉協議会へ委託して配置している。コロナ禍でつながりが難しくなっている状況や地域包括支援センターの 27 か所体制が４月に整うことなどを踏まえ、よりきめ細かいエリアで連携していけるよう、第９期高齢者保健福祉計画の策定を進める中で、生活支援コーディネーターの体制についても検討を進めていく。

・区は、ひきこもりや 8050 問題など、複合的な課題を抱える世帯に対して、令和２年度から設置した福祉事務所の連携推進担当が中心となり、包括的な支援を行っている。令和５年度から、複合的な課題を抱えながら、支援につながらない世帯に対するアウトリーチ型の支援を開始する。（社協の地域福祉コーディネーターを２名増員（11 名→13 名）し、区民や地域団体、地域包括支援センターなどから、地域で気になる方などの情報を収集し、個別訪問を実施）

②　認知症支援

・認知症を早期に発見し適切な支援につなげるため、区は昨年度から開始した「もの忘れ検診」の対象者を、令和５年度から拡大する。（検診の結果、認知機能が低下している方は、地域包括支援センターで個別支援を実施し、専門医療機関や介護保険サービスにつなぐ）

③　ひとり暮らし高齢者の終活

・第９期高齢者保健福祉計画に向けて実施した高齢者基礎調査では終活に関する設問も設けており、一般の高齢者の約６割が終活に興味を持っているとの結果を得ている。調査結果を踏まえ、終活に関する相談や亡くなった後の不安に対する支援など、高齢社会のニーズに合わせたサービスについて、検討を進めていく。

・区は、終活について「はつらつライフ手帳」に、ACP については「わが家で生きる」に、それぞれページを設け周知している。この２つは、関連していることから、今後、関係各課で連携し、より一体的で分かりやすい案内ができるよう努めていく。